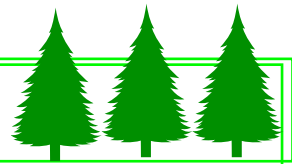




みつぎ便り



第186号 3月号 令和4年3月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です



トキワハゼ

一年草ですが、花期は非常に長く三月～十一月です。小さい株です。でなかなか気が付きませんが葉は冬でも見かけることができます。

草丈は五～二十^{センチ}、根元の葉は対生し花は唇形で、長さ一^{センチ}ほど。小さい帽子のような形の上唇は淡紅紫色で頂点が浅く裂けて奥に雌蕊と雄蕊が隠れています。雌蕊の柱頭は上下に分かれていて触れると閉じ暫くするとまた開きます（柱頭運動）。

これは、花を訪れた昆虫の体についた花粉を積極的に捕まえる工夫です。常に緑の葉が見られることから常盤（トキワ）の名がつけられたとされています。またトキワハゼの種子はすぐに発芽し瞬く間に花を咲かせる。この元気のよい様子を「はぜる」と表現し「ハゼ」の名がつけられたとも、花の形が古くから祝儀、吉事に用いられてきた爆ぜた米を連想させることから「ハゼ」の名がつけられたともいわれています。

タネツケバナ

(薫)

皆さんにも馴染みの深いナズナやワサビと同じアブラナ科の仲間です。二月はまだみつけられませんが、三月に入り、気温が高くなってくると十^{センチ}位に伸びて、白い小さな四弁の花を咲かせます。

見次公園でも陽当りの良い斜面のあちこちで見られるようになります。この名前は、昔、稲作で種もみが発芽しやすいように水に漬ける時期にこの花が咲くことから種漬け花と名がついたそうです。



この「タネツケバナ」は食用にもなるそうです。まだ、花を付けていない若葉を摘んで、サラダやお浸しにすると、程よい苦味が美味しいそうです。板橋区立公園等での植物採取は禁止されていますので、愛でて春を楽しみましょう。

(静)

よく見れば なずな花咲く

垣根かな

芭蕉